

「令和4年度西九州大学自己点検評価報告書」における

外部評価報告書

I 評価結果

【判定】

令和4年度の自己点検評価について、認証評価の基準区分に沿った計画が策定され、適切な実施運用及び自己評価がなされており、その妥当性を確認した。令和4年度の計画目標は概ね達成している。

II 総評

自己点検評価報告書からは、担当部署ごとに基準区分に沿って計画実施がなされており、「順調に進んでいる」ことを確認した。計画（検討及び実施事項）に対する総括が示されていない一部の項目や、平成29年度大学機関別認証評価「評価報告書」に記される「改善を要する点」及び「自己点検評価報告書」に記された「改善・向上方策（将来計画）」の課題が今後も残されているが、昨年に続くコロナ禍によって各計画実施に制限があるなかで、各部署において最善の取組みがなされている。また令和4年度は、第4次中期目標中期計画の最終年度にあたり、積み残された計画の実施や振返りがなされるとともに、第5次中期目標中期計画の策定にあたっている。また、Teams等を活用したオンライン授業等の活用や、数理データサイエンス教育といった拡がりを見せている。新たな学位プログラムとして全学的な「学環」の設置申請の準備に至っており、「基準1. 使命・目的等」「基準2. 学修と教授」に係る今後の新たな学部構想にも着手している。

報告書については、点検・評価の機能が見出しにくい点が挙げられる。平成29年度大学機関別認証評価「評価報告書」に示された「改善を要する点」及び「自己点検評価報告書」に記された基準区分毎の「改善・向上方策（将来計画）」に対して、点検・評価運営委員会は「基準4. 自己点検・評価」の「改善・向上方策（将来計画）」に示されているように、実施運用体制の改善充実を目指し、各部署の総括から導かれた達成状況や進捗状況、今後の改善課題を基準区分ごとに集約・総括し、今後の課題等を整理・共有するなどして、機能充実を図ることが期待される。急速な社会の変化に伴って、大学改革も加速している。令和5年度は、認証評価受審の前年度にあたる。第5次中期目標中期計画を含め、質保証システムへの対応に不足がないよう点検評価のPDCAを稼働させる必要がある。大学経営・学務においては、理事長・学長のリーダーシップが強く求められており、総括ではそのことが明確に示されることや、経費節減はもとより、「働き方改革」やDX化に伴う業務の簡素化、「選択と集中」的な計画実施の検討も進めていく必要がある。

令和5年5月31日

西九州大学短期大学部 副学長 平田 孝治